

子だから、知事が其の間の消息に通じて事を策するときは、政友の多數必ずしも恐るゝに足らない有様だ。

民政系は財政學の權威、博士小川郷太郎が支部長を勤めてゐる、之も岡田と同じやうに東京在住者なので、倉敷の市會議長をしてゐる古屋野橋衛が留守參謀長として活動してゐるが、之も亦政友會の眞似をした譯でもあるまいのに、黨内に小派を立てゝしつくり合つてゐない、小川に對抗して苦勞ものゝ西村丹治郎が一派を率いて對抗してゐる有様だ、假令小川に學識があつても代議士の當選十數回に及ぶ西村が、彼れ小川の命令を丸呑にする譯に行かないのは當然であらう。夫れに西村は小川と違つて人間味を多分に持つてゐて、萬人に好感を與えてゐるから、一層そう爲るのであらう。併し此處の政友といひ民政も其の内部に小黨を立てゝゐるやうなことでは、何時如何な事情に基いて分離作用が行はれるか判らない、言はゞ噴火口上の家屋の感がある。之も矢張り岡山縣人特有の個性の然らしむるところであらうか。

おことはり

大阪府廳を訪れて、大阪府の土木事業費を紹介したのに對し、同府土木部長の灘江武君から叱責された、成る程良く調べて見ると特別會計に都市計畫事業費として三百二十六萬圓の豫算があつたのに、之を落してゐたことは寃に恐縮する。之で大阪府の土木費總額は約七百八十萬圓に達する譯であるが、灘江君が言はれるやうに追加豫算を計上すれば一千萬圓に爲る。併し私の計算は當初豫算を目標としてゐるから七百八十萬圓と計算したい。夫れでもまだ大阪市の執行する土木事業に比較すると、餘り大きな顔も出來ないやうな感がある、何も市と府と競争して不要な土木事業を起す必要はない、切に急務とする事業からやつて貰ひたいのだが、攝津の山間部に於ける道路などは最も急を要するものゝ代表的なものであらう。灘江君が赴任以來銳意土木行政の進展に努めてゐて吳れる功勞に對しては深甚の敬意を表するが、尙一步進んでは等の方面に手を附けて貰ひたいものだ。